

緩和ケア病床News

緩和ケアチームに新しい仲間を迎えました。

平成25年度を迎え、緩和ケア病床も4年目を迎えると同時に、緩和ケアチーム活動も3年目になります。今年度は、緩和ケア推進チームに新しい仲間を迎えることができましたので、皆様にご紹介いたします。



職名 看護係長

氏名 高橋由美子

私は、内科病棟6階に勤務しております。病棟には、終末期の患者様や病状の安定しない患者様も多くいらっしゃいます。終末期にある患者様やご家族の方は、「明日への不安」や「痛みへの不安」を持っておられます。緩和ケアに求められることは、最期まで苦痛なく暮らせることではないでしょうか。また、患者様との信頼関係を築くこと、本質をくみ取ること、自分ひとりの価値観で相手を判断しないことが大切であると思います。

今回、緩和ケア推進チームの一員となったことで、患者様・ご家族ひとりひとりの思いを大切にして緩和ケアチームで取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



職名 看護主任

氏名 上本忍

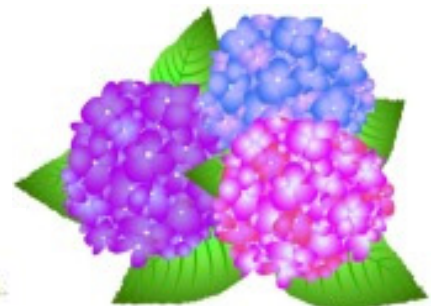
このたび新しく緩和ケアチームに加わりました上本です。

外科病棟の看護師として長らく勤務しておりますが、一般的に終末期=緩和ケアとする考えが定着していると思われ、十分な理解が得られていないのが実情です。

緩和ケアは、がん患者さんというより患者さんらしさを大切にする考えのもと、全人的苦痛について「つらさ」を積極的に緩和し、患者や家族の社会生活をチームで支援することにあるということの意識付けや啓蒙ができればと考えています。

また、緩和ケアを受ける時期にとらわれずがん治療の過程で心や身体が辛い時、少しでも生活の質を上げていけるように在宅から外来、そして病棟に繋げていけたらよいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



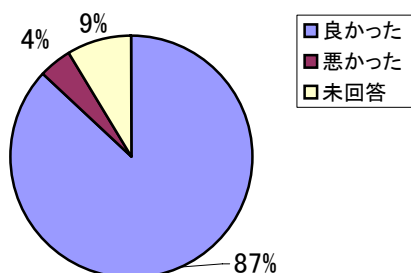
患者様・ご家族より貴重なご意見をいただきました。

このたび、緩和ケア病床では、ご入院されておりました患者様やご家族を対象に緩和ケア病床へのご意見をいただくことができました。

アンケートにご協力いただきました、患者様やご家族には、心よりお礼申し上げます。いただきましたご意見につきましては、謙虚に受け止め、これからの緩和ケア病床の運営に活かしていくよう努めてまいります。いただきましたご意見の一部をご紹介します。

1: 緩和ケア病床に入院されていかがでしたか？

緩和ケア病床入院の感想

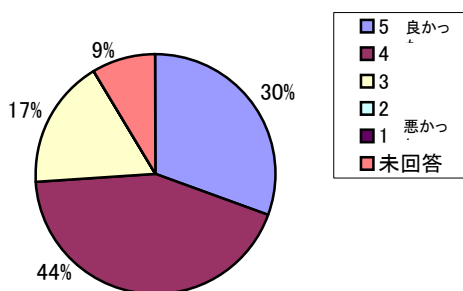


アンケートでは、医師や看護師の対応への心温まるお褒めの言葉をいただくことができました。また、ご本人とご家族の時間を大切にすることができた等のご意見をいただくことができました。

また、一般病床と緩和ケア病床差がどこにあるのかが分からなかったなどと当院の課題についてもご意見をいただきました。

2: 緩和ケア病床では痛みや苦痛などがなく過ごすことができましたか？

痛みや苦痛への対応



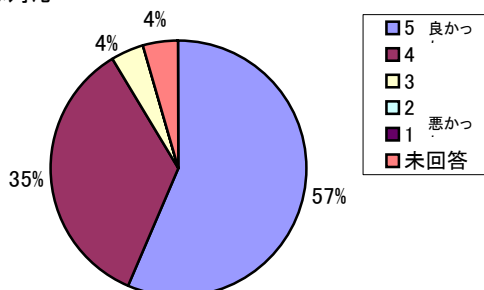
緩和ケアの大きな目的のひとつでもある苦痛への対応については、至らない部分がありました。

現在、当院ではこうした患者様やご家族のご意見を元に、緩和ケアチームを中心に対応方法の改善に取り組んでおります。

ひとりでも多くの患者様に、安心して療養していただくため、一生懸命取り組んでいきます。

3: スタッフは、痛みやさまざまな苦痛に対して迅速に対応しましたか？

迅速な対応



痛みや苦痛への対応について、患者様やご家族の不安は大きなものがあります。

スタッフ同士の情報を常に共有し、患者様・ご家族が不安を感じる前にできるだけ早く対応できるように取り組んで参りたいと思います。

このほかに、緩和ケア病床の設備や取り組みについて、ご意見をいただいております。こうした患者様やご家族からいただきましたご意見を参考に緩和ケアの質向上が図れるよう努力していきたく思います。

お花見会で楽しい時間をすごしました。

緩和ケアチーム 病棟5階看護師 伊藤美有紀



平成25年4月19日に病棟5階デイルームにて「お花見会」を開催しました。病院の近辺の桜は、すでに散ってしまっていたのですが、お花見会の担当看護師が、デイルームを折り紙で花で満開にして、華やかに飾り付けを行いました。

緩和ケア病床だけではなく、一般病床、他の病棟からも患者様やご家族の方が参加されました。

多くの方に集まっていたでき、にぎやかで楽しい雰囲気でした。参加者の方に歌詞をお配りし、一緒に歌いましょうと声をかけ、キーボードの演奏に合わせて「さくら」「春の小川」「四季の歌」「おぼろ月夜」「花」の5曲を合唱しました。



患者様・ご家族ともに大きな声で上手に歌っていただき、主催者の看護師は練習不足だったと反省しました。しかし、みんなでひとつになって楽しく、一生懸命に歌うことができました。

終わったあとに感想をお伺いすると、患者様は「このような行事をまた行って欲しいです。童心にかえて歌うことができて楽しかったです。また参加したいです。」とされていました。

また、ご家族の方は、「楽しそうな姿を見ることができ嬉しかったです。写真を撮ってもらい記念になりました。また、行って欲しいです。」とされました。

緩和ケア病床では、季節ごとの行事を行っています。このような行事を通して、入院中の患者様・ご家族に癒しや楽しいひと時を提供していけるよう、今後も取り組んで行きたいと思います。



※写真掲載承諾済み

緩和ケア病床 入院のご希望・ご要望について

■ 入院の対象となる方

がんなどの悪性腫瘍の患者様で、痛みや病気によって、起こるさまざまな苦痛の軽減などの緩和ケアを望まれておられる方が対象です。

当院では、緩和ケア病床へご入院していただく患者様やご家族が緩和ケアについて、ご理解されともに入院をご希望されていることが大切だと考えています。

そのため、ご入院に際しては、患者様やご家族と担当のソーシャルワーカーが事前にお話をお聞きし、入院に際してのご要望などをお伺いするようにしています。

また、当院の緩和ケア病床では、ご自宅での暮らしをサポートするため、三原市以外や県外の医療機関で加療を行い、自宅での暮らしの準備や、ご自宅で緩和ケアを受けられている方のご家族の都合(冠婚葬祭等でご自宅を留守にされる等)に応じ、ご家族に代わって生活をご支援するための一時的な入院にも対応しております。

※ 認知症状などのために、緩和ケア病床区域の静寂が保てず、他の患者様の生活に影響を与えるような場合は、一般病床への入院をお願いする場合があります。

※ 入院に際しては、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの多職種にて入院判定を行います。

※ 入院の順番は、入院の申し込み順を基本としておりますが、病状によっては前後する場合があります。

緩和ケア病床での主な医療サービス

- ① 痛み・食欲不振・息苦しさ・だるさなどの身体のつらさの緩和
- ② 患者様やご家族の不安や心配事などの心のつらさの緩和
- ③ 治癒を目的とした、抗癌剤治療や延命治療などは行いません。しかし、緩和ケアを目的とした抗癌剤治療や放射線治療は患者様やご家族と相談しながら行います。
- ④ 症状緩和に必要な検査や処置・治療は患者様やご家族と相談させていただきながら行います。

■ 入院のご案内・ご相談・見学をご希望の方

三原赤十字病院 地域医療連携課(担当:医療ソーシャルワーカー)へご連絡ください。

入院相談予約を取らせていただきます。入院相談では、医療ソーシャルワーカーが、病状やお困りのこと等のお話を伺うとともに、緩和ケア病床についての説明を行います。

入院相談へは、ご本人もしくは、病状をよく理解されている方にご来院いただければ幸いです。

緩和ケア病床 入院相談予約

地域医療連携課 **医療ソーシャルワーカー**まで

直通電話: (0848) 61-3812

発行担当者(問合せ先)

三原赤十字病院 緩和ケア推進委員会 事務局 地域医療連携課

〒723-8512

広島県三原市東町二丁目7-1

TEL:(0848)61-3812 FAX:(0848)64-8421